



おばあちゃんたちから伝統の技と味を伝授 小杉地区で笹だんご作り

6月22日、小杉地区コミュニティセンターで、小杉地域子どもセンターの主催により「笹だんご作り」が開催され、子どもやおばあちゃんなど50名が参加しました。

もち米の粉1.5kg、地元でとれたよもぎ3kg、笹の葉などを用意。子どもたちは、おばあちゃんたちからもち米の粉とよもぎのませ方、こね方を教えてもらい、歓声をあげながら両手で力いっぱい30分ほどこねました。その後、あんこを中に入れて丸め、3枚の笹の葉でだんごを包み、い草でしばって形を整えました。子どもたちだけでなく、お母さんたちも熱心に教えてもらいながら挑戦。いろいろな形の笹だんご約150個は、20分ほど蒸かして完成しました。「難しかったけど楽しかった。とてもおいしかった」という感想が聞かれました。

各地域の子どものセンターでは、様々な体験、催し物を開催していますので、ご参加ください。



阿賀野川沿線4市町の消防団 万一の被害に備えて水防訓練

5月25日、豊栄市高森地先の阿賀野川公園において、阿賀野川水防連絡会主催による阿賀野川下流ブロック水防訓練が実施されました。この訓練は、水防機関の士気の高揚と水防技術の向上、水防体制の強化を目的に、梅雨・台風による被害に備えて、毎年この時期に行われています。

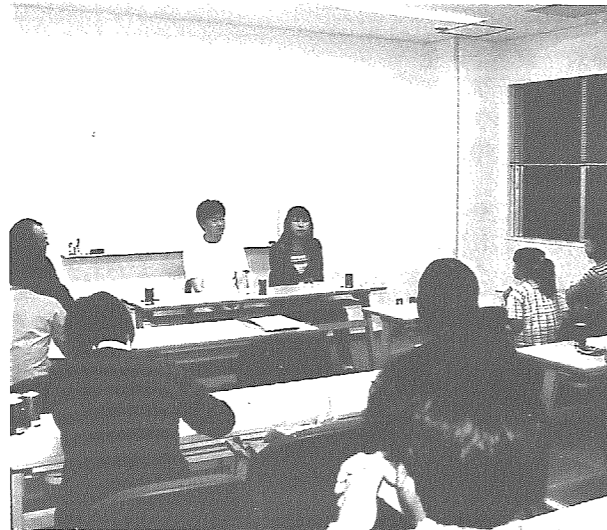
今年の訓練には、横越町から助役をはじめ消防団長以下39名の消防団員等が参加、新潟市、豊栄市、亀田町を含め総勢210名が臨みました。

団員たちは、ほどけにくい縄の結び方や土のう作りの基本技術を先輩団員から教わりながら練習した後、土のうを並べて漏水した堤防の決壊を防ぐ「月の輪工法」(左写真)、木を使って激流から堤防を守る「木流し工法」など4種類の工法について、他市町の消防団員とも協力しながら、万一の被害に備えて訓練を行いました。

よこごし国際交流協会総会開催 外国人の目から見た日本の感想を紹介

6月7日、よこごし国際交流協会の第9回総会がサンウイング横越で開催され、平成14年度の事業報告や15年度の事業計画、予算などについて審議され、了承されました。

続いて、昨年から新潟に滞在している中国人留学生の楊夫妻を迎えて講演がありました。その中で「①日本では、他人への配慮があること。②片言の日本語しか話せなかった頃、自分の日本語をほめてくれて嬉しかったこと。③日本では物事を遠回しに表現することがあり、混乱することがあったこと。④日本人はいろいろな宗教を取り入れている。世界が日本のように宗教に寛容であったら、宗教戦争はなくなるのではないかと、外国人の目から見た日本の感想を流ちょうな日本語で語り、参加者たちは「日本人が気づかない日本の良さを教えてもらい、楽しい話を聞かせてもらった」と話していました。



子どもたちによる白熱した競技と応援 横越小学校で大運動会

さわやかな運動会日和となった5月25日、横越小学校グラウンドで大運動会が開催されました。

「跳べ 走れ 叫べ横小 勝利をにぎれ！」をスローガンに、赤組・白組に分かれた約700名の児童たちは、友だちや家族、地域の皆さんの大きな声援を受けながら、徒競走・綱ひき・玉入れ・騎馬戦などの競技を行いました。

リレーでは抜いたり抜かれたり、綱引きでは引っ張ったり引っ張られたりと白熱した競技の数々に、子どもたちだけでなく観覧席からも一喜一憂の声、応援、感嘆の声が聞かれました。また、競技と並んで応援合戦も見どころのひとつ。歌詞や振り付けを自分たちで考え、約1か月間練習してきた赤白両軍の応援は、1年生から6年生までが一丸となって声や動きを合わせた大変力強いものでした。

みんなで力を尽くした結果は、競技の部で赤組が優勝、応援の部では白組が優勝しました。



神楽あり、太鼓ありの楽しい2時間 第2回 郷土芸能祭を開催

6月15日、横越町文化協会の主催により、二本木の横越勤労者体育センターで「第2回 郷土芸能祭」が開催されました。

この催しは、「町内の様々な神楽や民踊などの郷土芸能を、毎年会場を変えて、老若男女を問わずたくさんの地域の人たちに見てもらい、地域文化の発掘と継承につなげていきたい」という目的で、昨年からはじまりました。

今年は二本木が会場ということもあり、二本木郷土芸能創作グループの手によって完成したばかりの「ありの実盆唄」、小学生による太鼓やソーラン節が披露されました。

小学生の元気な踊りや民踊愛好家たちの華麗な踊り、地域に伝わる神楽舞に、観客から大きな拍手、手拍子、声援が送られていました。



子どもたちを交通事故から守ろうと 小学校で交通安全教室

5月30日、横越小学校で交通安全教室が開催されました。この教室は、自転車の乗り方の実技学習などを通して、交差点の横断などの交通ルールを正しく身に付け、子どもたちを事故から守ろうと毎年行われています。

4年生120名は、グラウンドに設置された信号機や横断歩道などを設けた模擬コースで、交通安全指導員などから左右確認や横断の方法などの指導を受け、正しい自転車の乗り方を練習しました。また、教室では、警察官から「事故の半分は交差点で起きています。きちんと止まる、飛び出しをしない、安全確認をする、この3つをしっかり守りましょう」と話がありました。

その後、1年生も加わって、ダミー人形による飛び出し実験を見学。人形が車にはねられる光景に、「もし自分だったらと思うと怖かった。痛そうだ」という感想が聞かれ、交通事故の恐ろしさを体験しました。